

株式会社 カワイ精工

DX宣言書

2024年8月30日
株式会社 カワイ精工
代表取締役社長 川合 忠昭

□ 経営理念

生産経済の要である金型をより良い品質で作り上げて提供する

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 私たちは従業員にとって働きやすい環境を作るために、これからも業務改善やシステムの自社開発等のDX推進に取り組んでまいります
- ◆ 自社でのDXの取り組みや他社へのDX支援によって得られた知見を活かし、新潟県内の事業者さまへのDX支援を強化し、中長期的な成長を後押ししていきます

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在～2024年12月)

戦略 「これまでのDX活動で蓄積した社内ノウハウを整理・ナレッジ化」

- 施策
- ・ 事業者さまへのDX支援に向け、自社でのDXの取り組みを振り返り、分かりやすく整理
 - ・ 特に取り組みの中で上手くいった点・上手くいかなかった点やそれらの要因を言語化【DXの取り組み実績概要】
 - 従来の業務プロセスを見直し、デジタル化を進めることで、業務の効率化や標準化、データ活用等を実現
 - 具体的には、金型情報のデータベース化による一元管理や、業務に必要な各システムの自社開発を実施(金型関連システム、購買管理システム、在庫管理システム、受注管理システム、勤怠管理システム等)

➤ フェーズ2(2025年1月～2025年12月)

戦略 「システム開発事業のさらなる飛躍に向けた基盤固め」

- 施策
- ・ マーケティング関連の外部研修等へ参加し有益な情報を収集、外部有識者の力を借りてシステム開発事業のロードマップ・営業戦略を策定
 - ・ 策定した営業戦略に基づき、社外向けに提供するシステムの仕様を一部見直す等、IT戦略を策定
 - ・ 営業戦略・IT戦略を実現するために必要な人員増強を目的に、デジタル人材の採用と育成を強化
 - ・ フェーズ1で整理したDX推進のノウハウを、会社ホームページ等で社外に発信し、DXによる社内業務改善や、外部へのDX支援に積極的に取り組んでいることを広くPR
 - ・ より多くの事業者さまから興味・関心を持っていただけるよう、ホームページの製品紹介ページに、過去にご支援した事業者さまの声や、製品の機能がイメージできるデモ動画を掲載

➤ フェーズ3(2025年7月～2027年8月)

戦略 「システム開発事業を通じたDX支援の本格化」

- 施策
- ・ ものづくり企業向けの電子カルテシステム「MoldX(モールドエックス)」や、機械の稼働状況・生産実績を見える化するシステム「管助(かんすけ)」の販売を中心に、システム開発事業を本格化
 - ・ フェーズ2で策定したロードマップ、営業戦略、IT戦略の効果を検証し、必要な場合は軌道修正を実施
 - ・ ご支援した事業者さまからシステム導入後のフィードバックをいただき、システム品質・機能のレベルアップを実施
 - ・ 様々な事業者さまへのシステム開発・導入の支援を通じて、新たなシステム開発・DX支援ニーズを拾い上げ、事業化を検討

□ DX推進体制

- ・ DX推進においては、代表取締役社長を統括責任者、専務取締役を実務執行責任者とします
- ・ IT事業部がDX戦略実行の中心的役割を担います
- ・ IT事業部の体制増強に向け、デジタル人材の採用と育成を強化していきます

□ DX推進目標

- ・ システム開発事業 売上構成比 : 2023年度比 プラス15%(～2027年8月)